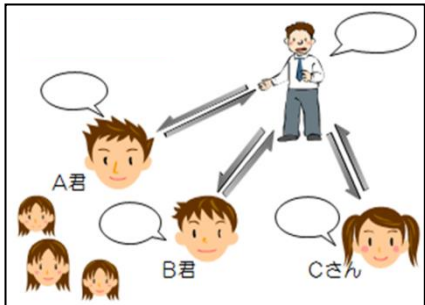
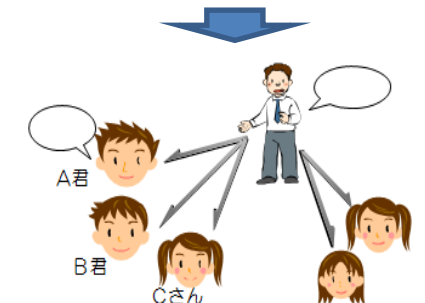


教師の授業中のコーディネート

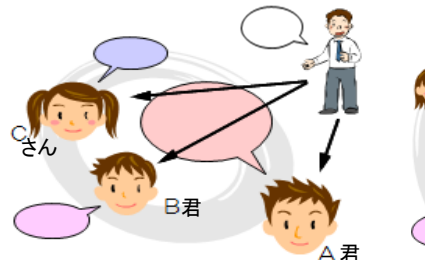


まず一問一答から脱却しましょう。
課題の工夫を。



意図的指名をしましょう。
確実な見取りを。

- ・「B君もA君と同じ考えだったけど付け加えることはある？」
- ・「Cさんは別な考えがあるみたいだよ。説明してくれる？」



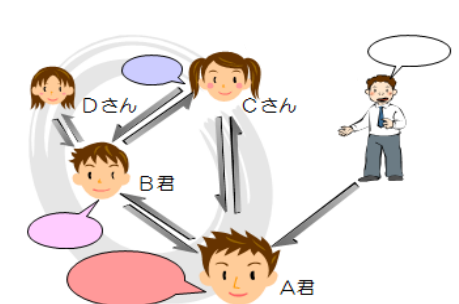
意見を広げたり、つないだりしましょう。
思考過程を引き出して。

- ・「B君、今A君が言ったことわかった？もう一度説明してくれるかな。」
- ・「CさんはA君の意見についてどう思う？」

各教科等の授業においては、「学力の向上」はもちろん、「子どもの自尊感情の向上」や「学級集団の親和性の向上」も意識しながら展開していくことが大切です。そのためには、教師は子どもたちの姿を見取り、その背景を洞察し、適切な手立てを選択し、実行するというコーディネートが必要になります。ここでは適切なコーディネートを行うためのポイントを挙げています。

ペアで話し合わせましょう。
何を話し合わせるのか、焦点を絞って。

- ・「A君は何て言ったの？」
- ・「A君はなぜそう言ったと思う？」
- ・「A君の意見に賛成？反対？」
- ・「みんなはどう考えたかな？」

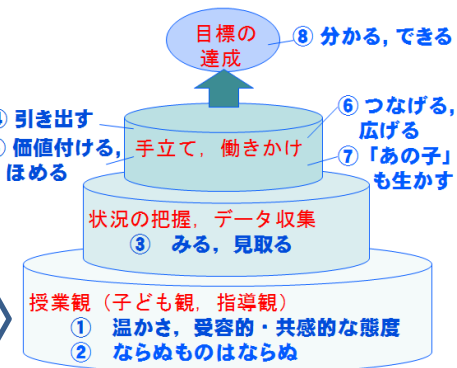


子ども同士で話し合わせましょう。
話し合う力を育てて。

- ・「みんなはA君の考えについて、どう思う？自由に話し合ってみて。」

コーディネートの8つのポイントです。最初から「分かる、できる」だけを求めず、①～⑦を十分に踏まえることが大切です。授業の中では下のような場面で特に重要です。

コーディネートの8つのポイント



■=学力の向上 ▲=自尊感情の向上 ●=集団の親和性の向上

▲●Point①
温かさ, 受容的・共感的な態度
・子どもは間違えながら成長するという基本認識
P58-61「学級集団づくりを意識する」

■Point④
〈問いや学習意欲を〉引き出す
・友だちの考えを聞きたくなる学習課題
・友だちの考えと比べたくなる学習課題
P24-27「よい学習課題を設定する」

■▲●Point⑤
価値付ける, ほめる
・発表等をさせたら必ず行う
・「自信を持たせる」「自己有能感を培う」という基本姿勢
P32-35「『共有』と『吟味』の活動を入れる」
P58-61「学級集団づくりを意識する」

▲●Point②
ならぬものはならぬ
・学習規律のある安心した学習空間づくり
P58-61「学級集団づくりを意識する」

■▲●Point③
〈子どもを〉見る, 見取る
・子どもの学習状況や内面を見取る
P46-49「子どもの姿を見取る」

■▲Point⑥
〈考えを〉つなげる, 広げる
・どう考えたのかを考えさせる
・友だちのよさを全体に広げる意識
P32-35「『共有』と『吟味』の活動を入れる」
P50-53「子どもの考えや発言を」で採寸する」
P58-61「学級集団づくりを意識する」

■▲Point⑦
「あの子」も生かす
・活発で活動的な子どもだけに頼らない
・物静かな「あの子」も生かす
P54-57「個々の子どもに対応する」

■▲Point⑧
分かる, できる
・「分かった」「できた」「役に立つ」等が実感できる授業
P28-31「ねらいとまとめの整合性を図る」
P36-39「振り返りの場を設定する」